

セ ボ ス

マガヤ

ランティア

ネットワーク



SETAGAYA VOLUNTEER NETWORK

世田谷発! ボランティア生活発見マガジン
<http://www.otagaisama.or.jp/>

2017.2 No.154

今月のトピック

特集●

子育てママだからできること ～子連れボランティアで広がる世界～

まちの市民力! ● わんの会
(障がい者福祉に携わる若者の会)

キラリ世田谷人 ● 工藤 美紀 さん



イラストレーション● 武隈 善子
空間の感触 主催。2児の母。
美術大学卒業後、実写映画等のCGを生業
としつつ、ライフワークである草木染めの
ワークショップを通し、表現の自由と自然
への敬意をみんなと感じとっている。

●わたしの世田谷

私が学生時代から母になる現在まで暮らす
この世田谷は、多様な人々が共存し、それ
を受けとめることができる懐深い地。
ずっと愛しています。

子育てママだからできること ～子連れボランティアで広がる世界～

「プロボノ」は、ラテン語が語源で、Pro Bono (Publico) = "For Good (Public)" つまり、「公共善のため」に市民が自分で自身の可能性を最大限に活かして、社会参加プログラムです。世田谷ボランティア協会の「おたがいさま」の考え方も通じます。活躍の場を子育て中のママたちのボランティア提供が、ママチャリやチャイルドバイクなど、お話を



写真提供／サービスグラント

「ママ」×「プロボノ」

「プロボノ」をご存知でしょうか。「仕事で培ったスキルや専門知識・経験等をボランティアとして提供し、社会課題の解決に成果をもたらす」活動です。プロボノプロジェクトのコーディネートを通じてNPOなどの団体支援をしているのが、「認定NPO法人サービスグラント」です。2005年に活動を開始し、2016年時点で3000人以上の方が「スキル登録」を通じて、参加を表明し、プロジェクトから成果物を生み出し、支援先に届けるといふ活動を行っています。

昨年6月に昭和女子大学で開催された「三茶子育てファミリアフェスタ」でのサービスグラントとの出会いから、お付き合いが始まりました。世田谷ボランティア協会の主催事業のひとつ「せたがやチャイルドライン」が出店していたところに、サービスグラント

からお誘いがありました。育休中のママたちの「持てる」ちからを咲かせる活動「ママボノ」を紹介されたのです。職場復帰を目指す子育てママの「子育ての他に社会活動によって新たな経験をし、復職に向けたウォーミングアップを図りたい」という希望に答えるのが「ママボノ」の活動です。

子どもからの電話を受ける「チャイルドライン」は世田谷から始まり、全国各地に広まりました。世田谷で常設されてから16年。活動内容を知らせ、ボランティアや寄付金による支援をよびかける広報物を見栄えのするものにつくりかえたいと思っていた時でしたので、「ママボノ」にリーフレット制作を依頼してみよう、ということになりました。さっそくサービスグラントに申請書を提出したのが昨年夏。書類審査、電話取材、面接による2次審査を経て、支援団体として採択されることになりました。

プロのスキルを活かす

チャイルドラインを含め、支援先は10団体のNPOなど。事前に提出した資料や面接内容などに基き、ママたちが立候補した中からチームが組まれます。そして11月、いよいよ7人から成るママチームとの「キックオフ・ミーティング」で活動がスタート。打合せでは、「どんなリーフレットにしたいのか、対象はどんな人たちか？」などを話し合い、内容を具体化していくための何人かのキーパーソンへの取材の日程を決めます。

まだしつかり首の座らないような赤ちゃんを抱き、時々おっぱいもふくませるママたちですが、仕事で培ったスキルをリーフレットのデザインやコンセプトに注ぎ込む意欲はさすがにプロ。取材のため何度も子連れでボランティアセンターに足を運び、それぞれの得意分野を活かして短期間で形にし

てくれました。

12月7日には10チーム合同で成果提案。支援を受けた団体は、せたがやチャイルドラインの他、「働く女性の全国センター」、「子育てネットワーク・ピッコロ」、「石巻復興支援ネットワーク」、「めじろ台町会連絡協議会」など、地域も支援内容も多岐にわたるものでした。

さて、チャイルドラインのリーフレットですが、訴える力が弱く、文字が多かったものが、印象に残るわかりやすい言葉と色の表紙、見やすいデザインと楽しげなイラストが散りばめられた中身に生まれ変わりました。さらに、リーフレットを補完するかわいい紙製のスタンドや、ポケットティッシュサイズの広報物、リーフレットの新規設置先の提案等、想像もしなかったようなアイデアもいただき、驚きとともに感動が！

ママたちのチームワークが抜群で、2ヶ月弱の間に、これまでずつ

と一緒に仕事をしていたかのように打ち解けた関係を築いていました。「このお仕事はとつても楽しかった」というママたち。「素敵なりーフレットができて、これで活動をPRしやすくなる」と喜ぶチャイルドライン。リーフレットがきっかけとなって生まれた関係



↑リーフレット案を色違いで何種類も提案してくれた

←リーフレット入れのスタンドも手づくり。よくみると電話の形。



は、さらに発展しそうな予感。もつとママたちの話が聞きたくなり、改めてインタビュしました。

「何かしたい」エネルギーを 社会参加へ

参加したきつかけを尋ねると「ネットで『ママ向けのインター』と検索して、ママボノを知りました。子どもが生後2ヶ月の時、よく寝てくれる子だったからヒマで時間と力をもてあましていたんです」と語るのはIT企業勤務のOさん。

「産後ケアのNPO『マドレボニータ』の教室に参加して、まず身体を整えて、社会に復帰するために何をしようかと思っていたところにママボノを知り、ふだん忙しいとできないようなことができそう、と思って」というKさん別のIT企業で働くママです。

「これまで時間がなくて仕事し

とを手当たり次第やりたいと思つて。ボランティアにも興味がありました。いろんな業種の人たちとも交流したかったし」と語るのはテレビ局勤務のTさん。

「子育てサロンで知り合った方がたまたまサービスタラントのスタッフで、誘われて登録しました。仕事が三度のご飯より好きなんです」と、学生時代からカンボジアに絵本を送る活動や通訳ボランティアもしてきた、商社勤務のMさん。みなさん「何かをしたい」エネルギーで満ち溢れています。

チャイルドラインを支援しようと選んでくれたのは、「子どもを生んでから、子どもに関することにアンテナがピピッと反応して」とTさん。「思っていた以上に得るものがあつた」とOさんは振り返ります。「こういう電話のしくみは大事だと思つたし、チャイルドラインへの取材を通して、今後子育てをする上でも覚えておきたいことを学びました。チームのメ



赤ちゃんを抱っこしながら
子連れでミーティング

ンバーからの刺激もあり、想像以上に学べました」

「チャイルドラインの活動は、単に深刻な悩みの相談ではなく、なんでも話しているんだよ、と子どもに呼びかけているものだ、と知つたのは嬉しいことでした。こういう活動を支援することで、自分も人を助けることができる、自分でできることがあるんだなあと思いました」(Tさん)

「リーフレットづくりつてもつとあつさり終わるのかと思つていただけ、こうしたつながりができ



チラシラックに埋もれないよう
A4版もつくっていただいた

て楽しかったんです。チームで役割分担できて、仕事に復帰した時のイメージがつかめて参加してよかったと思います」(Kさん)

成果を出す「仕事」として引き受けたプロジェクトは、仕事とは違う「学び」や発見があり、その活動自体への興味につながった、というのは嬉しいことです。「企業で働いているだけでは知らなかった福祉やNPOの世界をのぞくことができ」「自分の働き方や生き方を考えるうえでもいい時間だった」という経験は、これからこのキャリアにとってもきつと役立つことでしょう。

世田谷がもうひとつの実家に！

「子連れママが一步踏み出すのは確かに大変だし面倒くさいけれど、一歩出てみるといろいろ得るものがあります。子どもと2人だけにいるよりは精神的にずっと楽ですよ」と、Oさんは同じような若いママたちに伝えたいと思っています。

「ママボノ」で出会った7人のママたちが、幼な子を持つ同じ境遇で共感しあい、チャイルドラインのスタッフとも関係が深まり、リーフレット作成というひとつの目的を中心に、いくつもの糸がつながりました。広域から集まってくれたママたちでしたが、「世田谷に来ると、実家に帰って来たように……」という嬉しい言葉も。「新しい社会体験」、「仕事復帰へのウォーミングアップ」以上の「成果」だったかもしれません。

「1月の世田谷ポロ市にチャイルドラインもお店を出すから、よ

かったら来てみない？」と誘うと、寒い日にもかかわらず赤ちゃんを抱っこしたママたちが訪ねてきてくれました。出来たてのリーフレットを配り、バザーの売り子も買って出てくれました。赤ちゃんはどこでも人気者。3ヶ月前、初めて会った時、首がすわらなかつた赤ちゃんがしつかりおすわりをしていたり、9ヶ月になつてつまり立ちをしてる子もいます。こんなふうに、子どもたちの成長を眺めていけるのは嬉しいことです。

生まれたての素敵なリーフレットも、これからどう育ち、活用されていくのか。生み出したママたちはその成長を見守りたいと思っています。仕事に復帰しても、世田谷の「実家」を時々訪ね、チャイルドラインにいろんな形で関わってもらえたら、と心待ちにしています。

(寄稿/せたがやチャイルドライン
運営委員長 星野弥生)